

ChibaTechNews

No_702

2026年1月号

千葉工業大学 入試広報部

〒275-0016

千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号

TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344



先進分野の教育研究拠点として 半導体教育・研究用クリーンルームを整備

— 学部レベルで半導体プロセスを体験できる環境が誕生 —



新設されたクリーンルーム

宇宙産業の拡大と半導体技術の国産化・高信頼化の重要性が高まるなか、両分野を横断的に学べる宇宙・半導体工学科が昨年4月に開設された。これに伴い、同学科の学生が実際の半導体製造工程を学び、トランジスタなどの半導体デバイスをはじめとする電子デバイス製作技術を体験的に習得できるよう、ISOクラス7に対応したクリーンルームを新たに整備した。

津田沼キャンパス9号館2階に新設された同施設は、半導体デバイスやMEMS(微小電気機械システム)などの試作・評価を学部教育の一環として実施できるよう設計されたもので、教育機関としては国内でも限られた水準の設備となって

いる。清浄度の確保に加え、学部学生が安全に半導体プロセスを学べるよう、薬品・装置の取り扱い手順や運用面の安全設計に配慮した“教育目的に特化したクリーンルーム”である点が大きな特長である。基幹となる主要機器の搬入・据付は完了し、実習・研究を開始できる運用環境が整っており、今後も、教育・研究の展開に合わせて必要な機器が順次導入・設置され、設備の充実を図っていく予定。



超純水でシリコン基板を洗浄する学生

整備した主な設備としては、光露光装置(フォトリソグラフィ)装置、スパッタ成膜装置や、レジスト塗布・薬品処理を安全に行うための化学ドラフトチャ

ンバーなど、半導体プロセスの基本工程を体験できる機器に加え、原子層堆積装置やシリコン常温接合装置といった次世代半導体デバイス製作で鍵となる装置も含まれている。その他、半導体評価装置や電子顕微鏡と合わせ、学生は半導体デバイスの設計から製作、

評価までの一連の流れを実践的に学ぶことができる。



フォトリソグラフィ装置を調整する学生

宇宙・半導体工学科では、急

速に拡大する半導体産業と宇宙利用技術の融合を見据え、次世代のエンジニア育成に向けた教育環境の整備を進めている。今回整備したクリーンルームはその中核となる取り組みとして位置づけられ、今後、宇宙・半導体工学科2年生の「半導体デバイス製作実験」などの実践的教育で活用されるとともに、他学科や研究センターの利用など、先進分野の教育研究拠点としても、本施設を中心に産学連携による共同研究や実践的教育プログラムの展開を進める。

なお、本クリーンルームの正式名称に加え、クリーンルーム内の各作業室などの名称については、施設の運用方針や教育内容を踏まえ、今後、学内で検討を進める予定となっている。



お知らせ

入試シーズン到来 2026年度入学者選抜がスタート

2026年度入学者選抜は、1月17日・18日に実施される大学入学共通テストを皮切りに、本格的にスタートします。

本学では共通テスト利用入学試験(前期・中期・後期)に加え、今年度入試から「5教科基準点型入学試験(共通テスト利用)」を新設しました。

2月1日からは、A日程・SA日程入学試験を津田沼会場中心に全国19会場で実施します。

なお、入学試験実施期間中は、学内事務窓口業務を行っておりません。学生の皆さんはご注意ください。

[CONTENT]

【P2】墨田区と千葉工業大学、協定締結式を実施／瀬戸熊理事長がベトナム・貿易大学創立65周年記念式典へ出席／千葉工業大学体育会で初の女性会長誕生
【P3】教職課程の未来を考える全国

集会を本学で開催／ロケットガール＆ボーイ養成講座2025
【P4】未来ロボティクス学科の2研究室がつくばチャレンジ2025に参加／三谷さん「支部長賞」受賞／石塚さん「Best Paper Award Finalist」受賞

／田中さん「優秀ポスター賞」受賞／令和7年度前期のグッドレクチャー賞が決定
【P5】本学発展に貢献、教育功労者2名が表彰／建築学科2年生が物流倉庫の建設現場を見学／就職・進路

支援便り
【P6】文京区民柔道大会で深瀬さんが3位入賞／剣道部が見事優勝！個人戦でも好成績／出版のお知らせ／12月のできごと／2月のスケジュール

墨田区と千葉工業大学、協定締結式を実施



山本区長(左)と瀬戸熊理事長

昨年12月5日(金)、墨田区役所にて「墨田区と千葉工業大学との連携に関する協定」が結ばれた。本協定は、地域社会のさらなる発

展と理工系人材の育成等を目的としたもので、両者の連携をより体系的に進める新たなステップとなる。

式典に先立ち、山本享区

長と瀬戸熊修理事長は、墨田区内で推進されている宇宙連携事業やものづくり産業に関する意見交換を行った。本学スカイツリータウン®キャンパスでの取り組みや、惑星探査研究センター(PERC)が手がける先進的な宇宙研究が紹介され、地域と大学が持つ資源を生かした協働の可能性について意見を交わした。また、全国的な課題である理系人材不足についても共通の認識が示され、産学官が連携して取り組む重要性が確認された。

続いて行われた調印式では、両者がそれぞれ挨拶

の言葉を述べ、本協定に対する期待を表明した。

本学は2012年の東京スカイツリー開業当初より「東京スカイツリータウン®キャンパス」を東京ソラマチに設置し、最先端技術の情報発信基地として、地域との交流や学術活動を継続して展開。今回の協定締結は、これまで培ってきたつながりをさらに発展させ、両者がより明確な枠組みのもとで連携を深めていく契機となるものである。これにより、多様な協働プロジェクトの創出や地域課題の解決に向けた取り組みが一層進むことが期待される。

瀬戸熊理事長がベトナム・貿易大学創立65周年記念式典へ出席

瀬戸熊修理事長は、昨年11月15日(土)にベトナム・ハノイで開催されたベトナム共和国の貿易大学(ファム・トゥ・フオン学長、学部生・大学院生約20,000人、本部ハノイ市)創立65周年記念式典に出席した。本学と貿易大学は、2022年に包括的学術交流協定を締結して以来、デジタルビジネス分野を中心に、未来変革科学部をはじめとする関係部局が連携しながら教育・研究交流を進めてきた。式典に先立ち、貿易大学のフオン学長は瀬戸熊理事長との会談において、約1時間にわたり意見交換を行った。

会談の中でフオン学長は、本学からの継続的な支援に深

い感謝を示した。特に、若手教員育成や新たなデジタルビジネス分野の学士課程の開発において、本学が果たしてきた役割を高く評価し、「千葉工業大学からの支援は、貿易大学の未来を支える基盤となっている」と述べた。また、日本とベトナムの教育・研究分野における協力促進に対して、本学の貢献は大きいとの認識を示した。

これに対し、瀬戸熊理事長は貿易大学の創立65周年を祝い、これまで両大学が築いてきた学術交流の成果について述べた。本学が貿易大学にとって初の理工系協定校であることに言及し、授業支援や教員研修の受け入れなど、両大学の交流が着実に広がってい



フオン学長(中央)を囲んで記念撮影

ることを強調した。また、本学の近年の教育・研究成果として、学生が製作した超小型衛星「BOTAN」の国際宇宙ステーションからの放出や、日本初となる「宇宙・半導体工学科」の設置にも触れ、技術を通じた

国際貢献の姿勢を示した。

今回の会談と式典参加を通じ、両大学の協力関係はさらに強固なものとなった。今後も学生・教員交流など、両国の学術発展と人材育成に寄与していく。

千葉工業大学体育会で初の女性会長誕生



体育会会長に選出された平山さん

体育会会長に、創設以来初めて女性を選出された。新会長に就任するのは平山真衣さん(デザイン科学科3年)。

同会は1964年(昭和39年)に発足し、現在37団体が加盟する学生組織である。会員が体育活動を通じて健全な身体と精神の錬磨に励み、体育会加盟団体相互の親和

と協調を図り、ひいては本学の発展に寄与することを目的としている。また、学生が安心して運動・課外活動に取り組めるよう、体育会加盟団体の運営支援や行事運営、団体間の調整などを行っている。

平山さんは昨年1月から総務部長を務め、10月に会長へ立候補。主将会議および本部員会議を経て選出された。任

期は2026年1月1日から12月31日までの1年間となる。

就任にあたり平山さんは、「体育会は全員で力を合わせて活動する組織。周囲を頼りながら、より活動しやすい体制をつくっていききたい」と抱負を語る。今後は、加盟団体との連携強化や連絡方法の見直しを進め、体育会全体の活性化をめざす。

教職課程の未来を考える全国集会を本学で開催 約180名の大学関係者が来学し、議論と交流を深める

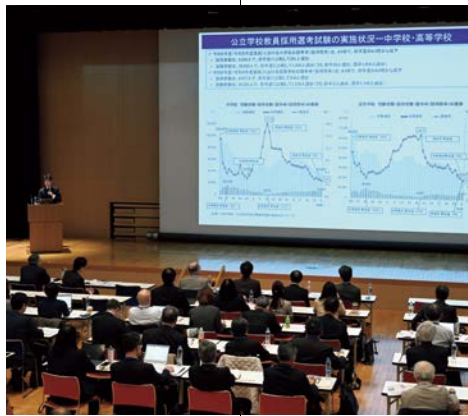
一般社団法人全国私立大学教職課程協会(全私教協)および関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会(関私教協)主催の「2025年度教職課程運営に関する研究交流集会」が、昨年11月15日(土)、津田沼キャンパスにて開催された。

今年度は、全国8地区が持ち回りで担当する本集会の「関東地区」担当年にあたり、関私教協の事務局が本学内に設置された(2025年5月～)こと、また本学の伊藤穰一学長が関私教協会長を務めていることから、千葉工業大学が開催校となった。さらに、教育センターの古賀毅教授が全私教協理事および関私教協事務局長を務めるなど、組織的にも深い関わりを持つ集会である。

本集会のテーマは「教職課

程カリキュラム改革と自己点検・評価をもとにした特色ある教職課程運営」。現在、中央教育審議会では教員養成制度の大幅な見直しが審議されており、大学の教職課程は転換期を迎えている。こうした状況を踏まえ、大学には自校の特色を生かした教員養成の取り組みが一層求められるようになっている。

当日は全国の私立大学から約180名が来学し、最新動向の共有と活発な議論が行われた。開会にあたり、全国私立大学教職課程協会の小原芳明会長(玉川学園理事長)、本学の



基調講演の様子

佐波孝彦副学長が挨拶し、制度改革が進む今こそ大学間の連携と知見共有が重要であると述べた。

その後、基調講演では、文部科学省教員免許・研修企画

室長の大根田頼尚氏が『「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の育成に向けた総合的な方策について』と題し、更なる学校にお

ける働き方改革の在り方、教師の処遇改善の在り方、学校の指導・運営体制の充実の在り方等についての最新動向を詳細に説明した。

続くシンポジウムでは、全私

教協の森山賢一常任理事(玉川大学)より、私立大学における教職課程カリキュラム改革の動向等が報告され、佛教大学・東京情報大学からは、自己点検・評価を基盤とした特色ある教職課程運営の事例報告が行われた。参加者は各大学の実践を共有し、改革の方向性について活発に意見交換を行った。

今回の研究交流集会は、教職課程をめぐる制度改革の最新動向を共有するとともに、各大学が自校の特色を生かした教員養成に取り組む意義を再確認する機会となった。開催校として本学が全国の大学関係者を迎えたことは、本学の教職課程の取り組みと役割を内外に示す機会となった。

ロケットガール&ボーイ養成講座2025 高校生が手づくりロケットの打ち上げに挑戦

高校生がロケットの設計から製作、打ち上げまでに挑戦する本学主催の「ロケットガール&ボーイ養成講座2025」が行われ、昨年11月16日(日)、千葉県夷隅郡御宿町・網代湾上でAチームとCチームの2機が無事に発射された。



ロケット発射の様子



ロケットを製作する高校生たち

本講座には高校生から多数の応募があり、選考を経て27名(9名×3チーム)が参加。関東近郊の高校から集まった生徒たちが、初対面の仲間とチームを組み、協力しながらロケットづくりに取り組んだ。製作したのは「ハイブリッドロケット」と呼ばれる、火薬を使わず、固体燃料と液体や気体の酸化剤を組み合わせで飛ぶロケット。比較的安全性が高く、大学の教育や研究で使われている方式で、生徒たちは設計や組み立て、燃焼実験などを通して、ものづくりの基礎から応用までを学んだ。

講座を技術面・安全面から支えたのが、本学の学生ロケットプロジェクトSPARKで、所属する学生がティーチング・アシスタント(TA)として参加し、高校生を身近な立場でサポート。異なる学科の学生がそれぞれの専門を生かし、大学での学びを実践の場で伝えた。

講座は6月8日(日)のキックオフから約半年間にわたり実施され、夏休みや土日を使って準備を進めてきた。打ち上げ当日は安全管理を徹底したうえで実験を実施し、ロケットは洋上から高度約200～300メートルに達した。

12月7日(日)には東京スカイツリータウン®キャンパスで打ち上げ報告会を開催。高校



生のほか、TAや教職員、保護者らが参加し、活動を振り返った。高校生からは「チーム全体を考えて行動する大切さを学んだ」「他校の生徒と協力し、発表まで行う経験は貴重だった」といった声が聞かれた。

和田豊教授(宇宙・半導体工学科)は「結果以上に、コミュニケーション能力や全体を俯瞰する視点に気づけたことが重要」と語り、教育的意義を強調した。本講座は、高校生が実体験を通して学ぶとともに、本学学生が支える立場として成長する、教育と研究が結びついた取り組みである。



打ち上げ報告会にて集合写真

未来ロボティクス学科の2研究室がつくばチャレンジ2025に参加



今井チーム



船井チーム

移動ロボットが自律走行する技術チャレンジ「つくばチャレンジ2025」の本走行会が昨年12月7日(日)、茨城県つくば市の市街地で行われ、未来ロボティクス学科の林原靖男研究室と上田隆一研究室に所属する学生たちが研究成果を披露した。

「つくばチャレンジ」(つくば市など主催、茨城県など後援)は、実環境(リアルワールド)における自律走行技術の進歩を目的に2007年から毎年開催されている。大学や研究機関、企業などが移動ロボットを開発し、その経験を共有することで技術レベル向上を目指してきた。全長2.2キロの市街地コースでは、安全確認や一時停止地点での自律的な停止を求められるなど高度な技術が必要とされている。

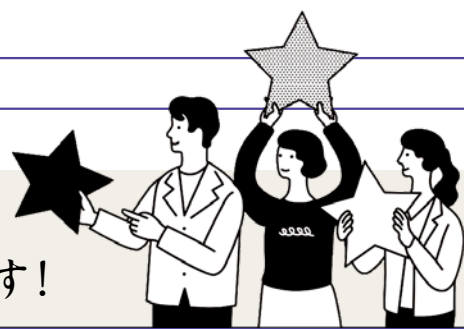
林原研の今井悠月さん(未来ロボティクス専攻、修士2年)は、AI(人工知能)を用いた新

たな試みに挑戦した。一般的なロボットは地図を作って位置推定をしながら走行するが、今回は模倣学習に基づき画像入力だけで自律走行を行う初めてのアプローチとなった。

小型ロボットは全高70センチ、重量約20キロで、最高速度は時速2.8キロ。市街地には段差や点字ブロックなどがあり、天候や人だかりも影響する。学内でのテスト走行は順調に推移していたが、本番は環境変化の影響で完走には至らなかった。今井さんは「現行システムの限界やリアルワールドの難しさを示すことができたのではないか」としながらも、新たなアプローチの結果には「成功に繋げるための第一歩になったと確信しています」と振り返る。

上田研の船井涼さん(同専攻、修士2年)は、「地図の圧縮」をテーマに取り組んだ。圧縮した「地図」を用いてロボットを自律走行させる試みで、実際の走行でも完走には至らなかったが、問題なく動作することが確認できた。船井さんは「小型の組み込みコンピューターを用いて自律移動を行うことで地図圧縮やナビゲーションシステムの軽量化の成果を示したいと考えていました」と自信をのぞかせた。その上で「このソフトウェアを後輩に引き継ぎ、さらに改良を重ねていって欲しいと考えています」と語り、後輩たちの研究開発に期待を寄せた。

受賞 おめでとうございます!



授与団体・受賞名称	
公益社団法人 日本材料学会 日本材料学会 関東支部学生研究交流会 「支部長賞」 屋上防水層に用いられる 絶縁用シートの 絶縁性能試験の検討	
受賞日 2025.10.4	詳細は コチラ
授与団体・受賞名称	
一般社団法人 電子情報通信学会 2025 International Symposium on Antennas and Propagation (ISAP2025) 「Best Paper Award Finalist」 Evaluation of Element Reduction Effect in Terahertz Synthetic Aperture Imaging Using Compressed Sensing	
受賞日 2025.10.28	詳細は コチラ
授与団体・受賞名称	
一般社団法人 色材協会 2025年度 色材研究発表会 「優秀ポスター賞」 マグネタイト／ シリカヤヌス粒子の調製	
受賞日 2025.10.31	詳細は コチラ

 三谷 祐生 さん 建築学専攻 修士2年 石原沙織研究室	
 石塚 陽光 さん 情報通信システム工学専攻 修士1年 長 敬三研究室	
 田中 蒼 さん 応用化学専攻 修士1年 柴田裕史研究室	

令和7年度前期のグッドレクチャー賞が決定

令和7年度前期のグッドレクチャー賞に教員26人が選ばれ、昨年11月20日(木)の受賞式で伊藤穰一学長から表彰された。令和2年から、過去5回以上ベストティーチャー賞を受賞した教員をDistinguished Teacher、過去5回以上グッドレクチャー賞を受賞した講義をDistinguished Lectureと

認定して表彰対象からは外すこととしている。

これまでにデジタル変革科学科の鴻巣努教授がDistinguished Teacherに認定され、未来ロボティクス学科の米田完教授、教育センターの市川洋子助教、佐藤和教授、引原有輝教授の講義がDistinguished Lectureに認定されている。



賞状を手に集合写真

今年度前期受賞者は次の通り(順不同)

【機械工学科】緒方隆志非常勤講師 【宇宙・半導体工学科】新井浩志教授／佐藤宣夫教授 【電気電子工学科】藤本 靖教授／山崎克巳教授／松田忠典准教授
【応用化学科】原口亮介准教授 【都市環境工学科】小田僚子教授 【未来ロボティクス学科】大川茂樹教授 【認知情報科学科】今井順一教授／山崎 治准教授
【デジタル変革科学科】田隈広紀教授／高木 徹助教 【経営デザイン科学科】関 研一教授
【教育センター(工学部)】小林憲司教授／尾身洋典准教授／重 歩美助教／大久保寛之非常勤講師／小栗宏太非常勤講師／林 彰子非常勤講師
【教育センター(創造工学部)】東山幸司教授／野村由実准教授 【教育センター(情報変革科学部)】K.R.ジョンソン助教
【教育センター(未来変革科学部)】木島 愛教授／中村 達准教授／高松佑介助教

本学発展に貢献、教育功労者2名が表彰



浅田副グループ長(左)と千代田部長

千代田和夫部長(総務部)、浅田大輔副グループ長(財務部・会計担当)の2名が、昨年12月6日(土)、千葉県私学教育振興財団から教育功労者として表彰された。

千代田部長は平成17年6月に勤務以来、温厚で誠実率直に職務に精励。入職以来、総務

課、大学改革推進室、学務部、総務部等の配属部署にて、持ち前のバイタリティーにより意欲的に業務を遂行。特に学部改組などの業務に精通し本学拡充発展のために尽力してきた。

浅田副グループ長は平成11年4月に勤務以来、旺盛な責任感を以て終始熱心誠実に職

務に励み、教務課、就職課、会計課を歴任。常に向上心を持ち、迅速かつ的確に業務を遂行した。主に教学部門に所属し、教務課及び就職課では学生サポート中心に履修指導、就職指導に尽力し、学生満足度の向上に寄与してきた。

建築学科2年生が物流倉庫の建設現場を見学
実践的PBLで“知識を現場に結びつける”学び

昨年10月27日(日)、建築学科2年生が「建築工学基礎演習2」の授業の一環として、千葉県習志野市にある大規模物流倉庫の建設現場を見学した。

同授業は、構造・環境・設備など建築に関する工学的基礎を学ぶ必修科目であり、今回の見学会は「本物の施工現場を体感することで、これまで学んできた建築工学の基礎知識を、実際の建物と結びつけること」を目的として実施された。これは、本学の120分授業という時間的特性を

活かし、課題解決型学習(PBL)を積極的に展開していることにより実現したものである。単に知識や技術を習得するだけでなく、産学連携や地域社会との協業など、より実践的な学びを重視している点が特徴である。

今回は、新習志野キャンパスから徒歩圏内に本学卒業生が携わる現場があることから、佐藤工業(株)協力のもと、特別に見学が実現した。延床面積約13万平方メートルにおよぶ巨大な倉庫の建設現場では、大型クレー

ンを用いたプレキャストコンクリート造による大スパン構造の施工が進行しており、学生たちはその迫力を間近で体感した。教室で学んだ構造力学や材料の知識を実際のスケールで確認し、建築という学問の“リアル”を感じ取った。

小橋知季准教授は「図面や演習課題で扱う建物の実際の大きさを体感できたことは、学生にとって大きな収穫である。基礎知識を学ぶ意義を再認識し、今後の



佐藤工業(株)現場見学の様子

専門的な学びに活かしてほしい」と語った。学生からは「現場のスケールに圧倒された」「授業内容が現実とつながった」「実際の仕事のイメージが湧いた」などの感想が寄せられた。知識の定着にとどまらず、実践を通して課題発見力と探究心を育む本学の教育の強みが表れた見学会となった。

就職・進路支援便り

3年生・修士1年生向け支援(他学年の参加歓迎)

後期授業も終了し、就職活動本番に向けて動いていると思います。活動状況に合わせて、就職システムの個人面談予約や、窓口の当日面談を積極的に利用してください。1月以降も、千葉工大生を積極採用したい各企業担当者が集まる「オープン・カンパニー」を開催します。企業から直接アドバイスをもらえるチャンスです。履歴書写真撮影会、就活マナー講座・学生アドバイザーによるアドバイスも実施しますので、希望にあわせて活用してください。

本学への2026年3月卒生向けに寄せられた求人は、12月時点で17,000社を上回っており、来年度も同様に、多くの求人が寄せられる見込みです。是非、大学のイベントや求人を活用してください。昨今、エージェント型・オファー型・スカウト型など、様々な形態の就活支援サービスがあります。安易に全てを任せてしまうのではなく、メリットとデメリットを理解し、困ったことがあれば就職・進路支援部に相談してください。

また、就職以外の進路のひとつとして、大学院進学があります。より高度な知識や経験を積んだ理系大学院生への期待は、今後更に高まっていくことが予想されます。長期休暇中に、保護者の皆様からも、進路に関して話す機会を作っていただけますよう、お願いいたします。

4年生・修士2年生向け支援

卒業論文・修士論文発表が終了する2月以降、千葉工大生積極採用の企業と直接出会える学内イベント等を複数実施します。卒業前に例年多くの学生が内定を獲得するイベントで、参加者の9割近くが内定を獲得しています。未内定の学生は、必ず参加してください。日程等の詳細は、メール配信等でお知らせします。個別相談も活用して、内定を掴みましょう。また、保護者の皆様の後押しもお願いいたしたく、イベントのご案内を保護者のご自宅宛に郵送させていただく予定です。

※4年生及び修士2年生で、既に就職や進学等の卒業後進路が確定している学生は、速やかに就職システムで進路報告の登録をお願いいたします。

日程	参加予定企業
1/19(月) オンライン	キヤノンシステムアンドサポート/タカノ/竹本容器/出光エンジニアリング/大豊建設/フコク情報システム/コムシス情報システム/パーパス/エヌアイデイ ほか
1/20(火) 対面	大日本印刷/キリンビバレッジ/明電舎/森六ホールディングス/TOTOパスクリエイト/巴商会/稲葉製作所/武蔵エンジニアリング/ドコモ・データコム ほか
1/21(水) 対面	日本化薬/タカノフーズ/山本通産/芝浦電子/大同信号/内田洋行ITソリューションズ/東芝情報システム/小野測器/高砂熱学工業/三島光産/イワブチ ほか
1/26(月) オンライン	キヤノン電子/日本ハム食品/デジタルガレージ/ヨネックス/ナカ工業/映像システム/ネグロス電工/ナカノフード建設/エスケー化研/丸藤シートパイル ほか
1/27(火) 対面	しのはらプレスサービス/千葉製粉/福井電機/メルシャン/リスパック/小倉クラッチ/高見沢サイバネティックス/ウチダエスコ/エスワイシステム ほか
1/28(水) 対面	オリエンタルモーター/NXエンジニアリング/大和製罐/日本ケミコン/日本特殊塗料/ホンダテクノフォート/NTTデータエマーズ/キリウ/日本ケーブル ほか
対象	全学年全学部全学科
予約	就職システムの支援行事予約

★各企業詳細や実施場所・時間等は、就職システムおよびメール配信をご確認ください。企業が追加となる場合も同様にご確認ください。

★対面は津田沼キャンパスで実施。★私服参加可。

文京区民柔道大会で
深瀬さんが3位入賞

昨年、11月3日の文化の日(月・祝)に、第75回文京区民柔道大会(文京区主催)が柔道の総本山である講道館で開催され、本学から二段の部に1名、三段の部に2名参加(参加者総数230名)した。三段の部では社会人2名に加え、順天堂大学から1名の計5名が総当たりで対戦し、深瀬皓也(PM3年)選手が2勝2敗で3位となった。深瀬選手は「体重が30kg上回る順天堂大学の選手と互角に戦えるまでの技術が身につけていませんでした。来年は最後の大会になるので、更に技に磨きをかけ、この大会で千葉工業大学の存在感を見せつけたい。」と唇をかみしめていた。



剣道部が見事優勝！個人戦でも好成績



昨年10月5日(日)、第59回習志野市民総合体育大会「剣道競技」が袖ヶ浦体育館で開催された。本学剣道部(主将：橘内孝宜・電電3年)は男子団体戦において、Aチーム：北澤光一(電電4年)、鈴木悠太(都市4年)、橘内、齋藤恵佑(材

料3年)、寺澤開智(都^{かいち}市2年)が見事優勝を果たした。また、男子個人戦(30歳未満の部)においても齋藤選手が優勝、鈴木選手が3位入賞という好成績を修めた。大会には市内の大学や道場などが一堂に会し、男子団体戦10チーム、男子個人戦

(30歳未満の部)28名が出場、熱戦が繰り広げられた。
団体戦優勝について橘内主将は「昨年は準優勝となってしまうため、今年は優勝を目標に日々稽古を行いました。その成果が発揮できたと感じています」と喜びを述べた。団体戦・個人戦ともに優勝した齋藤選手は習志野市代表として千葉県地区連盟対抗剣道優勝大会に出場したほか、5月に行われた関東学生剣道選手権大会では強豪相手に勝ち進み、剣道部として60年ぶりとなる全日本学生剣道選手権大会出場を果たすなど顕著な戦績を挙げている。

出版の お知らせ

電気回路素子を理解するための
電気磁気学

- 著者：佐藤 宣夫(宇宙・半導体工学科・教授)
- 定価：2,970円(本体2,700円+税)
- 判型：B5
- 頁数：146頁
- 発売日：2025/11/6
- 発行元：コロナ社

本書は、電気磁気学を初めて学ぶ学生を対象に、電界(電場)と磁界(磁場)を個別に理解することから始め、電気回路や回路素子へと段階的に学習を進めていくテキストである。乾電池と豆電球の回路といった身近な例を手がかりに、エネルギーがどのように伝達されるのかを丁寧に解説し、電磁気現象の本質的な面白さに迫る。電磁気現象を四次元時空の中で捉えつつ、工学的には時間の関数として扱える点に着目するなど、理解を助ける工夫が随所に盛り込まれている。簡潔な記述と豊富な図版により、電気磁気学に取り組む学生にとって親しみやすい一冊となっている。



『驚嘆の構造図鑑』
構造技術から読み解く、4500年の建築の歴史

- 著者：多田 脩二 他(建築学科・教授)
- 定価：2,200円(本体2,000円+税)
- 判型：A5
- 頁数：160頁
- 発売日：2025/12/8
- 発行元：グラフィック社

本書は、文化遺産に登録されている古代建築から現代の傑作建築までを対象に、「構造技術」という独自の視点から4500年に及ぶ建築の歴史を読み解く一冊である。
建築物に内在する構造の仕組みや技術的工夫に着目し、それらを構想・実現してきた匠やエンジニアたちの知力と情熱に光を当てているのが特徴だ。
68の事例を厳選し、豊富なイラストとともにわかりやすく解説しており、建築や構造に関心をもつ学生・技術者のみならず、幅広い読者に新たな建築観を提示している。



 12月のできごと

- 12月3日 ○ 講演会『公的研究費の適正執行と会計検査の視点』
- 12月4日 ○ 部同会
- 12月5日 ○ 合同企業説明会(26卒対象)
- 12月5日 ○ 墨田区との協定締結式
- 12月7日 ○ ロケットガール&ボーイ養成講座報告会(東京スカイツリータウンキャンパス)
- 12月9日 ○ 退寮式(2年生送別会)
- 12月22日 ○ 後期授業終了
- 12月23日 ○ 熊谷俊人千葉県知事来訪(津田沼キャンパス) 役員との意見交換や学内研究施設の視察
- 12月25日 ○ 冬期休業期間(～1月7日)

2月のスケジュール

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28